

ヨエル書

1

2

3

第1章



トエルの子ヨエルに臨んだ / 主の言葉。

² 老人たちよ、これを聞け。すべてこの地に住む者よ、耳を傾けよ。あなたがたの世、またはあなたがたの先祖の世に / このような事があったか。

³ これをあなたがたの子たちに語り、子たちはまたその子たちに語り、その子たちはまたこれを後の代に語り伝えよ。

⁴ かみ食らういなごの残したものは、群がるいなごがこれを食い、群がるいなごの残したものは、とびいなごがこれを食い、とびいなごの残したものは、滅ぼすいなごがこれを食った。

⁵ 酔える者よ、目をさまして泣け。すべて酒を飲む者よ、うまい酒のゆえに泣き叫べ。うまい酒はあなたがたの口から断たれるからだ。

⁶ 一つの国民がわたしの国に攻めのぼってきた。その勢いは強く、その数は計られず、その歯はししの歯のようで、雌じしのきばをもっている。

⁷ 彼らはわがぶどうの木を荒し、わがいちじくの木を折り、その皮をはだかにして捨てた。その枝は白くなった。

⁸ あなたがたは若い時の夫のために / 荒布を腰にまとったおとめのように泣き悲しめ。

⁹ 素祭と灌祭とは主の家に絶え、主に仕える祭司たちは嘆き悲しむ。

¹⁰ 畑は荒れ、地は悲しむ。これは穀物が荒れはて、新しい酒は尽き、油も絶えるためである。

¹¹ 小麦および大麦のために、農夫たちよ、恥じよ、ぶどう作りたちよ、泣け。畑の収穫がうせ去ったからである。

¹² ぶどうの木は枯れ、いちじくの木はしおれ、ざくろ、やし、りんご、野のすべての木はしぼんだ。それゆえ楽しみは人の子らからかれうせた。

¹³ 祭司たちよ、荒布を腰にまとい、泣き悲しめ。祭壇に仕える者たちよ、泣け。神に仕える者たちよ、来て、荒布をまとい、夜を過ごせ。素祭も灌祭も / あなたがたの神の家から退けられたからである。

¹⁴ あなたがたは断食を聖別し、聖会を召集し、長老たちを集め、国の民をことごとくあなたがたの神、主の家に集め、主に向かって叫べ。

¹⁵ ああ、その日はわざわざいだ。主の日は近く、全能者からの滅びのように来るからである。

¹⁶ われわれの目の前に食物は絶え、われわれの神の家から / 喜びと楽しみが絶えたではないか。

¹⁷ 種は土の下に朽ち、倉は荒れ、穀物がつきたので、穀倉はこわされる。

¹⁸ いかに家畜はうめき鳴くか。牛の群れはさまよう。彼らには牧草がないからだ。羊の

群れも滅びうせる。

19 主よ、わたしはあなたに向かって呼ばれる。火が荒野の牧草を焼き滅ぼし、炎が野のすべての木を焼き尽したからである。

20 野の獣もまたあなたに向かって呼ばれる。水の流れがかれはて、火が荒野の牧草を焼き滅ぼしたからである

第2章

あ なたがたはシオンで／ラッパを吹け。わが聖なる山で警報を吹きならせ。国の民はみな、ふるいわななけ。主の日が来るからである。それは近い。

2 これは暗く、薄暗い日、雲の群がるまっくらな日である。多くの強い民が／暗やみのようにもろもろの山をおおう。このようなことは昔からあったことがなく、後の代々の年にも再び起ることがないであろう。

3 火は彼らの前を焼き、炎は彼らの後に燃える。彼らのこない前には、地はエデンの園のようであるが、その去った後は荒れ果てた野のようになる。これをのがれうるものは一つもない。

4 そのかたちは馬のかたちのようであり、その走ることは軍馬のようである。

5 山の頂でとびおどる音は、戦車のとどろくようである。また刈り株を焼く火の炎の音のようであり、戦いの備えをした強い軍隊のようである。

6 その前にもろもろの民はなやみ、すべての顔は色を失う。

7 彼らは勇士のように走り、兵士のように城壁によじ登る。彼らはおのあの自分の道を進んで行って、その道を踏みはずさない。

8 彼らは互におしあわず、おのあのその道を進み行く。彼らは武器の中にとびこんでも、身をそこなわない。

9 彼らは町にとび入り、城壁の上を走り、家々によじ登り、盗びとのように窓からはいる。

10 地は彼らの前におののき、天はふるい、日も月も暗くなり、星はその光を失う。

11 主はその軍勢の前で声をあげられる。その軍隊は非常に多いからである。そのみ言葉をなし遂げる者は強い。主の日は大いにして、はなはだ恐ろしいゆえ、だれがこれに耐えることができよう。

12 主は言われる、「今からでも、あなたがたは心をつくし、断食と嘆きと、悲しみとをもってわたしに帰れ。

13 あなたがたは衣服ではなく、心を裂け」。あなたがたの神、主に帰れ。主は恵みあり、あわれみあり、怒ることがおそく、いつくしみが豊かで、災を思いかえされるからである。

14 神があるいは立ち返り、思いかえして祝福をその後に残し、素祭と灌祭とを／あなたがたの神、主にささげさせられる事はないと／だれが知るだろうか。

15 シオンでラッパを吹きならせ。断食を聖別し、聖会を召集し、

16 民を集め、会衆を聖別し、老人たちを集め、幼な子、乳のみ子を集め、花婿をその家から呼びだし、花嫁をそのへやから呼びだせ。

17 主に仕える祭司たちは、廊と祭壇との間で泣いて言え、「主よ、あなたの民をゆるし、あなたの嗣業をもろもろの国民のうちに、そしりと笑い草にさせないでください。どうしてもろもろの国民に、『彼らの神はどこにいるのか』と／言わせてよいでしょうか」。

18 その時主は自分の地のために、ねたみを起し、その民をあわれまれた。

19 主は答えて、その民に言われた、「見よ、わたしは穀物と新しい酒と油とを／あなた

がたに送る。あなたがたはこれを食べて飽きるであろう。わたしは重ねてあなたがたに / もろもろの国民のうちでそしりを受けさせない。

²⁰ わたしは北から来る者をあなたがたから遠ざけ、これをかわいた荒れ地に追いやり、その前の者を東の海に、その後の者を西の海に追いやる。その臭いにおいは起り、その悪しきにおいは上る。これは大いなる事をしたからである。

²¹ 地よ恐るな、喜び楽しめ、主は大いなる事を行われたからである。

²² 野のもろもろの獣よ、恐るな。荒野の牧草はもえいで、木はその実を結び、いちじくの木とぶどうの木とは豊かに実る。

²³ シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び楽しめ。主はあなたがたを義とするために秋の雨を賜い、またあなたがたのために豊かに雨を降らせ、前のように、秋の雨と春の雨とを降らせられる。

²⁴ 打ち場は穀物で満ち、石がめは新しい酒と油とであふれる。

²⁵ わたしがあなたがたに送った大軍、すなわち群がるいなご、とびいなご、滅ぼすいなご、かみ食らういなごの食った年を / わたしはあなたがたに償う。

²⁶ あなたがたは、じゅうぶん食べて飽き、あなたがたに不思議なわざをなされた / あなたがたの神、主のみ名をほめたたえる。わが民は永遠にはずかしめられることがない。

²⁷ あなたがたはイスラエルのうちに / わたしのいることを知り、主なるわたしがあなたがたの神であって、ほかにはないことを知る。わが民は永遠にはずかしめられることがない。

²⁸ その後わたしはわが霊を / すべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る。

²⁹ その日わたしはまた / わが霊をしもべ、はしために注ぐ。

³⁰ わたしはまた、天と地とにしるしを示す。すなわち血と、火と、煙の柱とがあるであろう。

³¹ 主の大いなる恐るべき日が来る前に、日は暗く、月は血に変わる。

³² すべての主の名を呼ぶ者は救われる。それは主が言われたように、シオンの山とエルサレムとに、のがれる者があるからである。その残った者のうちに、主のお召しになる者がある。

第3章

見よ、わたしがユダとエルサレムとの幸福をもとに返すその日、その時、

² わたしは万国の民を集めて、これをヨシャパテの谷に携えくだり、その所でわが民、わが嗣業であるイスラエルのために彼らをさばく。彼らがわが民を諸国民のうちに散らして、わたしの地を分かち取ったからである。

³ 彼らはわが民をくじ引きにし、遊女のために少年をわたし、酒のために少女を売って飲んだ。

⁴ ツロとシドンよ、ペリシテのすべての地方よ、おまえたちは、わたしとなんのかかわりがあるか。おまえたちはわたしに報復をしようとするのか。もしおまえたちがわたしに報復しようとするなら、わたしは時をうつさず、すみやかに、おまえたちのおこないの報復をおまえたちの頭上にこさせる。

⁵ これはおまえたちがわたしの銀と金とをとり、わたしの貴重な宝をおまえたちの宮に携え行き、

⁶ またユダの人々とエルサレムの人々とをギリシヤびとに売って、その本国から遠く離れさせたからである。

⁷ 見よ、わたしはおまえたちが売ったその所から彼らを起して、おまえたちのおこないの

報復をおまえたちの頭上にこさせる。

8 わたしはおまえたちのむすこ娘たちをユダの人々の手に売る。彼らはこれを遠い国びとであるシバびとに売ると、主は言われる」。

9 もろもろの国民の中に宣べ伝えよ。戦いの備えをなし、勇士をふるい立たせ、兵士をことごとく近づかせ、のぼらせよ。

10 あなたがたのすきを、つるぎに、あなたがたのかまを、やりに打ちかえよ。弱い者に「わたしは勇士である」と言わせよ。

11 周囲のすべての国民よ、急ぎ来て、集まれ。主よ、あなたの勇士をかしこにお下してください。

12 もろもろの国民をふるい立たせ、ヨシャパテの谷にのぼらせよ。わたしはそこに座して、周囲のすべての国民をさばく。

13 かまを入れよ、作物は熟した。来て踏め、酒ぶねは満ち、石がめはあふれている。彼らの悪が大きいからだ。

14 群衆また群衆は、さばきの谷におる。主の日がさばきの谷に近いからである。

15 日も月も暗くなり、星もその光を失う。

16 主はシオンから大声で叫び、エルサレムから声を出される。天も地もふるい動く。しかし主はその民の避け所、イスラエルの人々のとりでである。

17 「そこであなたがたは知るであろう、わたしはあなたがたの神、主であって、わが聖なる山シオンに住むことを。エルサレムは聖所となり、他国人は重ねてその中を通ることがない。

18 その日もろもろの山にうまい酒がしたたり、もろもろの丘は乳を流し、ユダのすべての川は水を流す。泉は主の家から出て、シッテムの谷を潤す。

19 エジプトは荒れ地となり、エドムは荒野となる。彼らはその国でユダの人々をしえたげ、罪なき者の血を流したからである。

20 しかしユダは永遠に人の住む所となり、エルサレムは世々に保つ。

21 わたしは彼らに血の報復をなし、とがある者をゆるさない。主はシオンに住まわれる」。

For other languages please go to www.wordproject.org